

むくのきだより



1月号

平成29年1月10日

港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

「啐啄同時」の新春を迎える

園長 小鹿原 賢

平成29年(2017年)新年明けましておめでとうございます。

今年の干支である酉年は、鶏(にわとり)を表し、昔から「時を告げる」「取り込む」などの意味があり、商売繁盛で縁起がよい年と言われます。幼稚園においても酉年にあやかり、子どもたちが様々なことを身に付けて成長し、大きく羽ばたいて欲しいと思います。

啐啄同時(そったく どうじ)という言葉があります。禅の言葉で、親鳥の子育てからできた教えだと言われています。卵にいる雛鳥が殻をつつき、まさに殻から出ようとする時を「啐」と言い、親鳥が外から殻をつつき、雛鳥を出そうとすることを「啄」と言います。この雛鳥と親鳥の殻をつつくタイミングが同時であることで、卵から雛鳥が生まれることができる、という話です。親鳥の殻を突くタイミングが一瞬遅れても雛鳥の命が危ないのです。雛鳥の殻突く力が不足していたり、突くことをしなかったりしても、いつまでも生まれることができないのです。

この啐啄同時という言葉は、「両者の思いれが一致した好機を逃さず、成果を得る」という意味があり、子育てや教育のヒントにつながります。つまり子どもが「自分でできることを増やし、次の段階に上がったたり進級したりする」そのとき、親や先生が「背中を押す」ことであると考えます。「そっと背中を押すのか、強く背中を押すのか。」まさに、子育てや教育の在り方を語っているのです。

3学期が始まりました。心もからだも一回り大きくなり進級や修了をする時期となります。私たち大人は子どもに対して、しっかりと「啐啄同時」を行ってまいりましょう。

本年も「心とからだを健やかに 人のためになる赤羽の子」を目指し、幼稚園教育の充実と発展のために努力して参ります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



園庭に咲いた水仙



長寿のはなちゃん (チャボ)